

学校再編準備委員会 第 7 回 総務部会

鈴鹿市教育委員会事務局 教育政策課

令和 7 年 4 月 21 日(月)

1. 天栄小学校の校歌について

<作成方法>

- 作曲は、専門家へ依頼する。(専門的なスキルが必要となるため)
- 歌詞については、児童の意見やアイデアを基にしたものとする。

(理由)

校歌づくりに取り組むことで、校歌への愛着や学校の一員としての自覚を高めることができる。

地域の文化や歴史についても考える機会となり、自分たちの住む場所について考える機会をもつことができる。

※ 作曲者について

音楽的専門性を有し、鈴鹿市にゆかりのある人物で調整中。

(予算の範囲内で人選)

<作成時期>

【令和7年5月】	作曲の依頼(令和7年度中に完成)
	
【令和8年4月】	<u>開校式にて、完成した曲(メロディ)を披露</u>
【令和8年4月～7月】	歌詞づくり
	※ 歌詞に入れたい言葉(フレーズ)や3校の校歌から引き継ぎたい言葉等を考える。
	※ 児童のアイデアや意見を基に作詞を行う。
【令和8年9月】	完成した校歌の披露 ⇒ 児童への歌唱指導
【令和9年3月】	卒業式で歌唱

参考:校歌

合川小学校 校歌

作詞 松浦一
作曲 弘田 竜太郎

流れも清き
中の川
清きところに
合川の
尊き人の
思い出の
昔ゆかしき
この里よ
正しき道の
ひとすじに
さらば励まん
はらからよ
朝日の光
身にあびて
星ののぞみの
いや高く

天名小学校 校歌

作詞 小林良雄
作曲 杉野 泰彦

天名のさとよ わが町よ
恵みゆたかな この土地に
育つ僕たち わたしたち
晴れたあしたも 雨の日も
えがおあかるく 通うもの
天名のさとよ わが町よ
窓もさやかな 学びやに
学ぶぼくたち わたしたち
規律正しく 根気よく
英知のいずみ ともにくむ
天名のさとよ わが町よ
南のそらの はて遠く
仰ぐぼくたち わたしたち
いよよきたえて はばたいて
ゆくてをひらく 白雲に

郡山小学校 校歌

作詞 中井 正義
作曲 桂 宏

こぶしの花が 咲いている
天に輝く 白い花
明るくあれよ 正しくあれよと
咲いている
広いゆたかな 日々の窓
ここにやさしい芽が伸びる
小鳥もさえずる 呼びかける
西や東の 友だちと
元気に学べ 仲良く学べと
呼びかける
あおぐ鈴鹿の山々よ
ここにあたらしい歌がわく
冬ぞら けやきが立っている
幹もこずえも 日をあびて
大きく生きよ きれいに生きよと
立っている
英知はぐくむ この大地
ここにすこやかな あすを見る
ああ ぼくら わたしら
郡山小学校

天栄中学校 校歌

鈴南緑なすところ
白砂近く山遠く
うまし国原ただ中に
そびえてたてる吾が母校
今紅顔の若人が
朝な夕なに学ぶなり
熱き心に睦びつつ
希望に燃ゆる若人が
撞くや自由の暁の鐘
ああ東の空晴れて
鈴鹿の嶺を仰ぎては
世紀の歌を唱うなり

2. 天栄小学校の校章について

<基本的な考え方>

天栄小学校の校章を新たに作成する。
校章デザインを基に校旗を作成する。

<作成方法>

- デザイン案を複数作成し、児童・保護者等に選んでもらう。
- 校章のデザインは、児童の意見やアイデアを基にしたものとする。

(理由)

校章は、学校を象徴するシンボルマークであり、校章について考える機会をもつことで、学校への愛着や学校の一員としての自覚を高めることができる。

<作成時期>

【令和8年4月～7月】 校章のデザイン案作成

※図画工作の時間等を活用し、校章のデザイン案を考える

【令和8年7月～8月】 デザイン案の校正

※校正依頼(案)⇒飯野高等学校応用デザイン科 など

【令和8年9月】 校章デザインの選定(児童・保護者等の投票)

【令和8年10月】 校章デザインの決定 ⇒ 校旗作成

【令和9年3月】 卒業式(校旗の掲揚)

参考:天栄中学校区小中学校 校章



【合川小】



【天名小】



【郡山小】



【栄小】



【天栄中】

3. 開校式について

日 時	令和 8 年 4 月 8 日 (水)
会 場	天栄小学校 体育館
時 間	30 分程度 (予定)
式次第	開式の言葉 開校宣言 国歌斉唱 市長式辞 来賓紹介 来賓祝辞 学校長挨拶 児童代表の言葉 校歌披露 閉式の言葉
出席者	【学校】 児童 (2 ~ 6 年生)、教職員 【地域】 学校再編準備委員会委員 PTA 会長・副会長 学校運営協議会委員 校区関係議員、自治会長 まちづくり協議会委員 など 【市】 市長、教育長、教育委員、事務局

※ 開校式の後、令和 8 年度の始業式を実施 (2 ~ 6 年生)

※ 入学式 4 月 9 日 (木)